

患者サービス向上委員会は、病院・施設の利用者様にご満足のいただける医療・福祉サービスの提供に努めています。

7月8月9月の接遇課題 「相手の立場に寄り添う接遇」

リハビリテーションにおける取り組み

生活行為向上リハビリテーションの導入

松尾内科病院
リハビリテーション科長
中野 徹

私たちの日々のくらしは、どのように営まれているでしょうか？朝、起きてからのことを少し考えてみてください。晴れの日には、この色の服を着ようとか、朝食の前にいつも、ストレッチをしているとか、家を出るのは何時何分だとか、夕食に唐揚げが出たときの付け合せはこれだとか・・・挙げだすと、数え切れないと思います。これらは全て、私たちの「生活」です。

病院や施設を利用されている方々は、程度の差こそあれ、「生活」に不便さを感じています。私たち、リハビリテーションスタッフは、その不便さに対して、専門的な知識を使って、少しでも生活がよくなるように対応をしています。特に「リハビリ」といえば、運動療法が中心の印象を持たれるかと思いますが、この「生活」に視点を置いた方法もあります。

生活行為向上リハビリテーションは、対象者が望んでいるものを見つけるから始めます。そのために、じっくりと、しっかりと対象者の訴えを傾聴します。そして、本人にとって、現在の生活から最も意味のあることを、目標として設定していきます。それから、プランを立てていく中で、リハビリテーションスタッフだけでなく、家族、医師、看護師、ケアマネジャー等、他職種とも連携をとり、支援を行うための方向性を示していきます。この考え方はリハビリテーションマネジメントとも言われています。より質の高いリハビリテーションを提供するために、多職種協働で対象者の生活をより良いものにしていくことができればと思います。



褥瘡予防対策 ポジショニングクッションの使い方



臥床時間が長く、自ら、痛い、しんどい、苦しいなどの訴えができない方々は、その身体の動きを使って、痛みやしんどさや苦しさを表現しています。私たちはそれをもとに、より安楽な姿勢をとれるようにサポートしていかねばなりません。

先月より、ポジショニング専用のクッションを病棟に導入しました。そして、7/28、導入して1ヶ月ほどたったことを機に、購入先のアイ・ソネックス、藤井氏をお呼びして、クッションの使用方法などのレクチャーをしていただきました。院長先生や亀川外来看護主任にクッションを体験してもらい、「すごく楽だった」「気持ちよかった」という感想をいただきました。臥床時間の長い患者さんたちが少しでも安楽に過ごすことができるように、病棟看護師・補助者、リハスタッフが連携して対応していきたいです。

院内探険隊 環境ラウンド

外来診療科 林美佳子・総務課 末久慎吾

平成 27 年 7 月 10 日 14 時～『院内探険隊』として患者さん目線で掲示物・案内図のラウンドを行いました。1 階では、エレベーター・病棟の案内図が無く迷われる患者さんもいらっしゃいました。取引業者の方や患者さんにもインタビューを行い、処置室・診察室の文字がもっと大きい方が見易いのは？というご意見もありました。また、患者サロンへの案内はあるのですが、売店の案内が無かったので即日案内図を貼り直しました。病棟へ上がると、患者さん向けの掲示板で



A3やB5等様々なサイズの掲示物がありました。こちらも見易いようにサイズを揃えて掲示し直しました。これからは患者さん・ご家族だけでなく職員も含めて相手の立場に寄り添い、改善を続けていきます。



Clinical Laboratory 検査科 ヘッドアップティルト試験

検査科では、5月25日から「ヘッドアップティルト試験」という新しい検査を始めました。

この検査は主に起立性調節障害を調べる検査です。起立性調節障害では、めまい、たちくらみ、倦怠感、頭痛などの症状が見られます。検査方法は、ベッドに横になった状態から始めて、数分後ベッドを上げて60度の状態にし、しばらくしてもとの水平の状態にします。検査中は指に巻いた血圧計で常に血圧をチェックして、その変動を記録します。検査時間はおよそ30分です。また、この検査はベッドの角度を変える必要があるため検査室ではなくリハビリ室にて2名で行っています。

初めての検査で慣れないことも多いので、手技の習得と患者さんの不安の軽減に努めていきます。

5S Report

毎月、委員会で各部署「5S活動」への取組を発表しています。

第2病棟

注射器や輸液セットの容器整理、定数管理を分かりやすく改善



Before

